

<論文>

「語言文化學系」における初級日本語の 取り組み

—大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成のための教育を目指して—

緒方智幸

要旨

相較於帶著六法全書或貿易白皮書的大學生，一個日文系一年級的學生若在其旁邊，練習「你是學生嗎？」等基礎會話，難免顯得很幼稚。其實，即便是初級的句型，也可以用來訓練學生習得有深度的內容、話題、及其思考能力的。當然，這與該日文系認為日文系的學生該學什麼的教育理念或教育目標有密切的關係。東海大學日本語文學系從 2004 學年度開始進行大幅的課程改革，試著讓學生在學習日語的同時，亦能去思考關於日本及其周邊社會的人，事，物，並習得如何與人交流及解決問題之能力。當這段改革的流程中，筆者適逢擔任一年級初級日語的新課程，而本論文即是筆者在本系的教育目標下，試著除了培養台灣學生的聽、說、讀、寫等語言運用能力外，如何讓學生習得多元文化社會下的社會文化知識以達到能及早適應社會並能與社會交流的教學理論與實踐報告。

關鍵字：課程改革、綜合日語、語言運用能力、社會文化知識

1. はじめに

A「ゾウは鼻が長いです。」

B「台湾は外国人労働者が多いです。」

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
—大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

この二つは内容や日本語のレベルがかなり違うように見えるけれども、使われている文型はどちらも「…は…が…です」という、同じ初級文型である。一般に初級日本語の教室では、A のような例文が使われることが多い。そのため「大学生なのに勉強していることが幼稚だ」と誤解されることがよくある。確かに六法全書や貿易白書を抱えた学生の傍らで、「あなたは学生ですか」、「明日どこへ行きますか」等の会話練習をしている日本語学科一年生は、幼稚に見られるということも頷ける。では本当に大学生でも初級のうちは、「幼稚な」練習ばかり行わなければならないのだろうか。答は「ノー」である。すでに上記の例でも示したように、初級の文型を使って、より深い内容の文作り、話題作り、思考の訓練が可能である。これは一授業の教授法というより、日本語学科の大学生が何を学ぶべきなのかという、学科の教育理念や教育目標と大きな関わりがあると言える。

台湾では 2009 年 9 月現在、全国で 42 の大学の日本語文学系及び応用外語・応用日語学系で、日本語を主専攻とする教育が行われている。¹一方、淡江大学、政治大学などでは、政治・経済を中心とした「日本研究」が大学院や研究中心において進められてきた。²そして、台湾においては長い間、「日本語教育＝日本語学科」、「日本研究＝政治・経済・社会領域の研究」という棲み分け、あるいは反目があつたが、近年両者の協力、または結合の可能性が討論されるに至っている。³

この点について李徳奉(2009)は、「広域日本語教育学」という研究概念の構築を提示し、この概念は言語学、応用言語学、教育学、日本学の4つの学問領域に跨るとしている。そしてそこに属する項目として、

A【言語学的領域】語彙、文法、音声、意味、文字・表記法、対照言語学

B【応用言語学的領域】社会言語学、心理言語学、認知言語学、語用論、言語文化学、

財団法人交流協会編「台湾における日本語教育事情調査報告書」財団法人交流協会、2010年、p.88-108

²1968年に中國文化大学、1983年に淡江大学に日本研究所が設けられ、政治・経済を中心とした日本研究が大学院において進められた。そして2009年には国立政治大学が「日本研究中心」を設立、日本語学科から独立した研究所として日本研究が位置づけられた。

³2011年10月南台科技大学で開催された国際シンポジウム「文化産業と日本語教育の結合とその可能性」をはじめ、2012年6月政治大学での国際シンポジウム「日本語教育と日本研究の位置づけと展望」等、近年日本研究と日本語教育の接点が模索されている。

神経言語学、言語美学、言語政策、翻訳・通訳論

C【教育学的領域】教育課程、教授理論、教材論、評価、学習戦略理論、習得理論、教育哲学、教育社会学、教育心理学、教育工学、教育統計学

D【日本学的領域】風土、文学、歴史、社会、民俗、催事、慣習、宗教、芸術、美意識、意識構造、通過儀礼、年中行事、作法言語文化学を挙げている。⁴

このように広域的な考えで大学の日本語学科のカリキュラムを考えた場合、それはどのようにあるべきなのか。そして現場で日本語を教える教師はどのように授業を進めればよいのか。多元化、グローバル化が進む台湾で、大変重要な問題である。

2. 東海大學でのカリキュラム改革と学科名の変更

ネウストプニー(1995)は、「コミュニケーションは人間の行動の目標ではなく手段であり、それは社会・文化、或いは社会・経済的な行動の手段にすぎない」と述べている。そして「日本語教師の最終的な目標は、社会・文化・経済的なインターアクションのための能力でなければならない」と主張する。⁵

東海大學日本語文学系では、日本語を「それを使って何かをするための道具(ツール)」という捉え方をし、その道具の使い方のみならず、その道具を使って何をするのかを探求することを学生に求めると同時に、実際に様々な活動やプロジェクトを通して体験、学習をさせようと試みている。それに先立ち、学科では 2001 学年度に先の李徳奉氏をはじめ国内外の著名な学者を招いた国際シンポジウムを通して、台湾の言語教育の問題、カリキュラムデザインのあり方等について意見交換を行うなどしながら、段階的なカリキュラム改革を進めてきた。⁶その一環として 2004 学年度から必修科目を一・二年の語学の基礎科目のみとし、三年次以降は全ての科目が選択必修科目となり、そこに社会、文化的な領域を多く取り入れ、学生のニーズや進

⁴李徳奉「学問融合型広域日本語教育学構築を求めて」2009 年度台湾日語教育研究國際學術研討會、2009 年

⁵J.V.ネウストプニー『新しい日本語教育のために』1995 年、p.10-11

⁶東海大學日本語文学系國際學術研討會「大學教育目標與日語教育」2002.1.19-20

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
—大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

路に応じて選択履修ができるよう改編を行った。その後若干の変動はあるが、現行の三・四年次選択必修科目は以下の表(1)の通りである。

表(1):東海大學日文系三・四年次選択必修科目一覧

I 類 ⁷
日語討論與表達一/二
日語新聞聽解一/二
日劇聽解一/二
日語新聞閱讀一/二
報告論文寫作一/二
商用日文(通年)
日本近現代文學賞析(通年)
日本資訊傳播導論一/二
日語語法二/三
翻譯－日翻中一/二
台日報導寫作(通年)
台日社會語言分析一/二
日語戲劇表演(通年)
日本史(通年)
台日區域專題(通年)
中日語言對比分析(通年)
日語分科教學法一/二
日語語音學概論一/二
II 類 ⁸
日本古典表象文化論一/二

⁷三年次向けの開講であるが、一年次から四年次までに履修を開放している科目

⁸四年次向けの開講であるが、一年次から四年次までに履修を開放している科目

類義表現一/二
日語専書導讀一/二
台日關係(第一学期)
日本國際關係(第二学期)
日語討論與表達三(通年)
日本語學總論(通年)
日語口譯(通年)
翻譯-中翻日一/二
台日溝通比較一/二
日本近現代表象文化論一/二
台灣日語文學一/二
越境文化論(通年)
台日媒體製作(通年)

その後の改編で、三・四年生向け社会・文化的領域科目への入り口として、一年次から二年次にかけて、「多元文化導論」、「表象文化概論」、「言語コミュニケーション概論」、「社会文化概論」を必修として組み込み、三・四年次での学習がスムーズにいくよう取り計らった。

このような大小のカリキュラム改編を経て、2012 学年度からは学科名も改正、「日本語文學系」から「日本語言文化學系」とし、「言語」と「文化」を両立させるという学科の趣旨を、学科名でも顕著に表わすことになった。学科名の一部となった「文化」の表す範囲は広く、前述の李徳奉が唱える「広域日本語教育学」に近い概念となっている。

3. 一年初級日本語の改編

2004 学年度のカリキュラム改革で三年次以降の科目を選択必修とし、社会・文化的な領域を多く取り入れたのに対し、一・二年次の日本語基礎科目の改革は一步遅れを取った感があった。また、三年次から様々な分野のことを学ばなければならないという状況が生まれたことか

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
— 大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

ら、逆に一・二年次のうちに日本語能力をしっかり定着させなければならないという、担当教師のプレッシャーにも繋がった。

そして2008学年度からは一年次の必修科目にもメスを入れ、それまで「初級日本語」「初級日本語會話」「日本語發音」「初級日本語聽解」「初級日本語習作」とあった日本語の初級科目を、「綜合日本語(一)」(Comprehensive Japanese)としてひとくりにし、それを便宜上、「綜合日本語(一)A」4単位、「綜合日本語(一)B」2単位、「綜合日本語(一)C」3単位、と再分割した。「綜合」(comprehensive)という概念は、語彙や文法や読解や會話等の能力はそれぞれ独立した能力ではなく、お互いに影響し合う、関連のある能力であるという考え方による。それは、単語や文法を知らなければ聞くことも話すことも書くこともできない事実から見ても明らかであり、また読解から作文へ、聽解から會話へ、読解から討論へ等、一つのクラスで複数の能力を必要とする場合が多いことから再編成した授業科目である。しかし、実際には異なる教師が文法や読解や會話等の異なる授業を担当することによって学習内容や練習項目の重複が生じて、週9時間ある綜合日本語(一)の時間を効率的に使い切れないという問題が生じ、上記の「綜合」の概念を徹底させるため、2011年度からは一つのクラス(学生25-30名)の綜合A,B,Cの授業を一人の教師が一括して担当するという、新しい授業体制をスタートさせた。⁹

このような流れの中、2012学年度から学科名も「日本語文化學系」と変わり、「言語」と「文化」を共に重視することを明確にした現在、一年次の基礎言語科目の授業をどのように進めて行けばよいのか、この2年半の取り組みを振り返る。

⁹東海大學日文系の一年生入学者の定員は100名で、これに華僑や外国人学生が加わってひとクラス55 - 60名の2クラス体制となっている。日本語科目の授業ではこれを更に偶数番号・奇数番号の2クラスに分け、A奇、A偶、B奇、B偶とそれぞれ25 - 30名のクラスで授業を行っている。綜合日本語(一)の担当教師は台湾籍教師3名、日本籍教師1名であるが、2011年度に新しい体制になってからの三年間はこの4名の教師による担当が固定している。そのため教師間のコミュニケーションはスムーズで、学期前の授業計画や学期中の教材、試験に関する連絡、学期後の反省会等、互いの連絡を密にしながら進めている。

4. 授業の試み①－文型・文法

「総合日語(一)A」では、主に語彙、文法、文型の導入及び練習を行う。授業時間は週4コマだが、実際には総合Bや総合Cとの絡みで週9時間まで調整可となっている。¹⁰教科書は『みんなの日本語』を使っているが、授業では重点のみを説明し、自学可能なところは自分たちで練習させ¹¹、授業ではPPTやタスクシートを通して練習するようにしている。その際に意識しているのは、基礎的な文型練習の中で、学生がいかに「社会・文化」にも関心を持つようなタスクを作るかということである。ここで授業で使ったいくつかのタスクを紹介する。

まずは、数字の練習。数字は日本語学習の早い段階で導入されるのが普通であろう。『みんなの日本語』では、第1課で年齢、第2課で部屋番号、第3課で値段が提示されている。多くの日本語教育現場では、教科書に入る前の五十音学習の段階で数字の読み方を練習する場合もあるだろう。しかし、この段階での数字導入は数字の部分に重点が置かれ、人の年齢や物の値段を聞くようなタスクが多く、数字が表す内容にはあまり関心が向けられていないように見受けられる。そこで筆者は、数字の表す内容として、「日本(台湾)の人口」、「日本(台湾)の平均寿命」、「日本(台湾)の結婚年齢」、「日本(台湾)の大学の授業料」、「日本(台湾)のサラリーマンの給与」、「日本・中国・台湾間の貿易収支」などの数値を練習に入れている。後日、学生達が授業でプレゼンテーションを行ったり、卒業後仕事で資料として使う数字は、大きな位の数値や、複数の数値の比較が多いはずである。そして日本語と中国語は共通して十進法を使っているため、「一」から「九」まで、及び「十」「百」「千」「万」「億」の計 14 の単語で、999,999,999,999 通りの数字の表現が可能である。フランス語やドイツ語にはできない技である。初級だから小さな位、上級だから大きな位と考える必要はないのである。初級の段階から内容のある大きな数字をどんどん練習すべきだと考える。

¹⁰一人の教師が総合日語として「読む」「書く」「聞く」「話す」を一括して担当するため、総合日語 A,B,C 計 9 時間をどう時間配分するかは担当教師の工夫次第である。

¹¹東海大学日文系では学生の自律的な学習態度を重視し、これを「自学」と呼んで、インターネットを通してのタスク練習、TA を使った個別指導、課題を与えた後の小テスト等、様々な形で自律学習をサポートしている。またそのための空間として 「自学室」を設け、パソコンや学習参考資料をいつでも使えるように開放している。

また、数字そのものの練習だけでなく、文型練習の際にもできるだけ大学生らしい学習ができる数値を取り上げることが心がけている。例えば『みんなの日本語』第 12 課では、比較の文型「A より B のほうが…」を学習するが、ここでも社会的な統計数値を使っての練習が可能である。例えば、国の人口や、平均寿命、結婚年齢、出生率、自給率、物価などの数値を見ながら、時代による変化や国と国の比較をするようなタスクを作ることで、学習者の興味を持続させるとともに、社会的学習に繋げることが可能となる。例えば、「日本(の女性)は世界で一番平均寿命が長い」という文型を練習したら、その要因が何かを学生に考えさせる。また、近年の日本、台湾、韓国の出生率の低下を見て、その要因や今後の対策などを考えることも大学生として重要であろう。

次に、『みんなの日本語』第 17 課では文型「…なければならない」を学習するが、その練習として以下のような、学校、社会、国家の規則を考えるタスクを作成すれば、我々の社会が様々な規則のもとに営まれていることを考える材料となる。

表(2)：文型練習タスク例

いろいろな規則	
A.東海大学にはどんな規則がありますか。	
1.	なければなりません。
2.	なければなりません。
3.	はいけません。
B.学生寮にはどんな規則がありますか。	
1.	なければなりません。
2.	なければなりません。
3.	はいけません。
C.日本語学科にはどんな規則がありますか。	
1.	なければなりません。
2.	なければなりません。
3.	はいけません。
D.中華民国(台湾)にはどんな規則がありますか。	
1.	なければなりません。
2.	なければなりません。
3.	はいけません。
E.国際社会にはどんな規則がありますか。	
1.	なければなりません。
2.	なければなりません。
3.	はいけません。

『みんなの日本語』には様々な副教材が用意されているが、その中の『句型練習冊』は、学習した文型の文作り練習や予習、宿題等に使うことが可能である。中には教師が作るタスクのヒントになるような練習も多く、教師がそれを応用してタスク練習させることも有意義と考える。例を挙げると、第 22 課の「連体修飾」を学習する課では、『句型練習冊』に次のような練習が用意されている。

例:携帯・PHS を持っている高校生は 45%です。

1. TVゲームで_____高校生は_____%です。
2. パソコン_____高校生は_____
3. ヘッドホンステレオ_____

棒グラフを見ながら穴埋めするという練習だが、話題が高校生ということと、時代背景が十数年前で、使われている単語や統計が古いという点で、練習がしにくい。そこで最近の国際貿易や社会問題の統計を使って同じようなタスクを作ることで、文型学習と同時に文化・社会的な学習も可能となる。タスクを作る時の考え方としては、なるべく見た眼を簡単で空白の多いものにするので、学生が考えたり書いたりするスペースを多くとるようにする。

表(3)：文型練習タスク例

世界でいちばん	
例:テレビ	テレビを一番多く作っている国は()です。二番目は()です。
1.自動車	
2.コーヒー	
3.ビール	
4.インターネット	
5.	

このタスクを使って行う練習は、以下のような流れになる。

教師:自動車を一番多く作っている国はどこだと思いますか。

全体学生:日本?ドイツ?

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
—大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

(プロジェクターで統計を見せて)教師:中国です。

学生:えええ。

教師:統計を見ながら言ってください。

学生:自動車を一番多く作っている国は中国です。

教師:一年に何台作っていますか。

学生:1379 万台作っています。

教師:では、二番目は?

学生:二番目に多く作っている国は日本です。

教師:2000 年から 2005 年まで自動車を一番多く作っていた国はどこですか。

学生:アメリカです。

教師:全文を言ってみてください。

学生:2000 年から 2005 年まで自動車を一番多く作っていた国はアメリカです。

教師:では、2006 年から 2008 年まで一番多く作っていた国はどこですか。

学生:日本です。

このようにして、「コーヒーを作っている国」や「よくビールを飲む国」、「インターネットが普及している国」等の統計を使って練習を行うことで、文型学習にとどまらず、学生の興味を引き、かつ社会・文化的な学習にもなるようにする。このような統計は探せばいくらでもあり、このような資料を有効に授業に取り入れるべきだと考える。¹²

さらに、このような練習を行うことで、必要となる語彙も必然的に変わってくる。初級だからと言って教科書にある「机」や「辞書」などの身の回りの単語ばかりでなく、知的学習者でかつ中国語母語話者である台湾の大学生に対しては、「貿易」「輸出入」「生産」「技術」「記録」「需要」「平均」「増加」「減少」などの漢字語彙を早いうちから導入すべきと考える。

¹²谷治正孝『なるほど知図帳世界 2011』、2011 年

5. 授業の試み②－「読む」

教科書『みんなの日本語』は、会話練習中心に編纂されており、いわゆる「課文」(本文)がない。しかし、副教材の『みんなの日本語・読本篇』を併用すれば、そこに載せられた文章は、学習文型を中心としているものの、その内容は「内容科目」教材として使えるものが少なくない。

例えば、読本篇の第 17 課は「江戸時代」と題した文章で、教科書の第 17 課で学んだ文型「動詞＋なければならない」や「動詞＋なくてもいい」等の使い方を定着させるのが目的であるが、文章の内容は、徳川幕府の鎖国制度や宗教政策、参勤交代などについて易しく述べたもので、これを利用して日本の政治、歴史、宗教についての学習や討論が可能である。

また、読本篇の第 40 課「常識」は、教科書で学んだ文型「疑問文＋かどうか＋動詞」、「動詞＋てみる」等の使い方の定着を目的とした内容だが、文章は「常識」というタイトルで、国による常識の違いがおもしろく紹介されており、これなどは異文化理解の学習としてぴったりの内容である。

授業のやり方としては、『みんなの日本語』で文型練習を終えた後、学生に読本篇の予習をさせ、授業で発表させる形をとっている。ポイントは発表の内容として、①文法・文型に関するもの、②歴史的・文化的背景を調べること、の両方を指示しておくことである。実際、上記の第 17 課の授業の際には、発表学生が江戸幕府の参勤交代について詳しく調べてきていて、授業では学生たちに、幕府がこの制度を作った理由やその効果について、グループ別に考えてもらった。

このように『みんなの日本語・読本篇』は、課によっては「内容科目」の教材として使う価値が充分あるが、あくまで教科書に沿った文型中心であることに変わりはなく、これだけでは学生に日本語の文章を「読んでいる」という実感を感じさせるのには十分ではない。そこで、第二学期から週に一回学生の自習時間を使って、別の読解教材を使つての読解練習を行うようにした。教材は、NPO 法人日本語多読研究会の『レベル別日本語多読ライブラリー』(4レベル全 20 冊)で、学生をグループに分けて、一つのグループで同じ本を読む練習をしている。練習の方法は学生に自由に決めさせた結果、みんなで順番に読むグループや、翻訳していくグループ、文法事項を探すグループ、感想を言い合うグループ等、学生によって使い方は様々である。ただ、この教材は日本で学ぶ多くの外国人を対象としているため、漢字や文型の難易度を意識して書かれており、レベル 1 くらいだと台湾の学生には物足りなく感じられるようで、レベルを少

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
— 大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

し上げることで学生の関心も高まった。中でもレベル 2 の「ハチの話」(忠犬ハチ公の物語)や、レベル 3 の「注文の多いレストラン」(宮沢賢治)等は、有名な作品を易しく書き換えたもので、学生の人気が一番高かった。この時間は、普段の授業で質問したことのない学生が、本の内容について熱心に質問に来るなど、学生の関心は高かった。

現在はこれを読解の自習教材としてのみ使用しているが、今後は読解後の感想を発表させるなどして、「話す」授業との繋がりを検討していきたいと考えている。

6. 授業の試み③－「書く」

「総合日語 B」では、主に作文を取り扱う。教材は、『みんなの日本語』の副教材である『大家寫にほんご作文』で、そこには教科書の文型に沿った形で、以下のようなタイトルと作文例が掲載されている。(括弧は『みんなの日本語』での学習文型)

表(4):『大家寫にほんご作文』目次

ユニット 1	自己紹介 (第 6 課まで)
ユニット 2	わたしの部屋 (第 10 課まで)
ユニット 3	わたしの国・町 (第 13 課まで)
ユニット 4	わたしの家族 (第 16 課まで)
ユニット 5	週末 (第 19 課まで)
ユニット 6	はがき (第 22 課まで)
ユニット 7	プレゼント (第 25 課まで)
ユニット 8	旅行 (第 28 課まで)
ユニット 9	もしわたしが 2 人いたら (第 32 課まで)
ユニット 10	趣味 (第 35 課まで)
ユニット 11	楽しい 1 日 (第 38 課まで)
ユニット 12	日本でびっくりしたこと (第 41 課まで)
ユニット 13	わたしの夢 (第 44 課まで)
ユニット 14	隣の人にひとこと (第 47 課まで)
ユニット 15	手紙 (第 50 課まで)

中上級の作文授業では、教師がタイトル(またはテーマ)を与えて、学生に授業中または宿題として作文を書かせ、提出した後教師が添削し、返却するというパターンが一般的だろう。しかし、この方法で添削された作文をどれだけの学生が有効活用しているだろうか。「添削し

ばなし」という教師や学生のお話をよく耳にする。また、日本語学習歴が一年にも満たない初級の授業では、作文と言っても何をすればいいのかということも、よく教師間で問題になることである。作文を文型練習の場と捉えるやり方もあるだろう。しかし、優秀な成績で高校を卒業し、大人の世界に足を踏み入れようとしている大学一年生に、「私は学生です」「私は朝7時に起きます」「私の趣味はテニスです」等の初級文型の羅列が、果たして「高等教育」と呼べるのだろうか。単なる語彙・文型の練習にとどまらない、内容を重視した初級作文の授業はできないものだろうか。

そこで「内容重視」のやり方として試みたのは、1週目に教科書を使って簡単な練習をした後、作文を宿題として課し、2週目の授業で学生たちが書いた作文のフィードバックをクラス全体で行うという方法である。

フィードバックの方法は、まず学生が提出した作文に教師が語彙・文法的な誤用のチェック、及び内容についての簡単なコメントをした後、翌週クラスで一人一枚ずつアランダムに作文を配る。学生は、配られた作文、つまり他の学生が書いた作文を読んだ後、中国語でコメントを書く。¹³内容についてのコメントである。短い作文なので、3、4分でこの作業を終わる。終わった後、近くの学生と作文を交換し、同じようにその作文を読んで内容に関するコメントを書く。これを繰り返し、約40分ほどで回収する。これで一つの作文に対し、10人前後のコメントが書かれていることになる。最後に、教師とクラスメートのコメントが書かれた作文を本人に返す。次の例は大学に入って基礎から日本語を始めた学生が書いた作文と、それに付けられたクラスメートからのコメントの例である。

¹³あとで学生達のコメントが書けるように、作文はB4版用紙の左半分いっぱい書き、右半分は空白として残すよう指示している。原稿用紙を使う場合は最後のページを空白にする。

表(5):学生の作文例

わたしの夢
<p>人生の旅では、みんながきっとひとつやふたつ夢があります。</p>
<p>わたしは今、小説家になるために、いろいろな話を書いています。</p>
<p>中学のとき、小説と漫画好きになりました。小説を読んだとき、わたしは「この小説家の話はほんとに面白いね。わたしもこんな面白い話を書きたい」と思いました。そのときから、わたしは</p>
<p>ずっといろいろな小説と漫画読んで、いろいろな話を書いています。</p>
<p>ある日、わたしは青森県の青年雑誌に投稿した、それに掲載しました。そのとき、わたしはほんとに嬉しかったです。そのとき</p>
<p>から、わたしは「わたしの小説を認められました。」と思いました。</p>
<p>わたしはもう小説家になる夢を確認しました。</p>
<p>高校のとき、わたしは学校の文芸賞に投稿しました。でも、賞を取らなかったけど失敗は終りはありませんでした。失敗は大切な経験でした。三年生のとき、また文芸賞を挑戦しました。</p>
<p>小説のタイプ(type)はファンタジー(fantasy)でした。それはわたしが初めて書いたタイプでした。でも、この小説をずっと文芸賞を取りました。</p>
<p>わたしは失敗でも、小説を書くこと、続こうと思っています。それはわたしの夢なんです。将来、ほんとうに小説家の仕事ができるかどうか、わかりませんが、頑張ってみようと思っています。</p>
<p>青年雑誌に掲載されたり、文芸賞をとったり、きっと才能があるんですね。頑張って夢を追い続けてください。</p>

表(6):作文につけられたクラスメートからのコメント

<p>小説家は個個福目前會個時的職業啊... (下過感覺) 均會很複雜 就班的寫進度, 不會有這程的...</p>
<p>先從目標 "這本小說真不賴" 賞開始吧! 輕小說家都 幾乎從這裡開始受到重視的。如果是一般小說家的話 想個細膩且龐大的故事搞不好可以一夕成名?!</p>
<p>小說家是個自由的行業耶~ 如果你能寫出一套成名小說你就貓死啊! (台灣)</p>
<p>期待你成為小說家唷! 不要忘記通知我幫你看作品喔! 哈哈 以後就可以看到你名字囉! :)</p>
<p>加油唷! 自己把興趣當職業那是太幸福啦! ♡</p>
<p>你是用筆名還是本名投稿? 我要 google 你 ><!!!</p>

この方法で狙っている主な学習効果は以下の二点である。

- 一、自分が書いた作文と同じタイトルで書かれた他の学生の作文を見ることで、自分と違う観点や違う世界があることへの「気づき」を引き出す。
- 二、自分の作文への多くの激励や叱咤により、次の作文を書く「やる気」を引き起こす。

この方法は三十年以上前に筆者の出身大学で採られていたものだが、作文が苦手嫌いだった学生を、作文が好きで得意科目に変えた方法であった。¹⁴ 難しくて書けないと思ったテーマでも、他人の作文を見ることで「こんな切り口があったか」と気付かされたり、自分の書いた作文を褒められることで「次も頑張ろう」という気にさせられる。これは外国人への日本語教育の現場でも使えるのではと考え、過去にいくつかの中上級クラスで試みたが、一年生でこの方法を採用したのは筆者が総合日語(一)を担当するようになって2年目からである。今の段階では、その効果について明言はできないが、半年そこらで学習者の作文能力が著しく向

¹⁴ 上智大学文学部新聞学科では一年次から四年次まで「演習」として作文が必修になっている。
<http://www.info.sophia.ac.jp/sophia/j/>

上しているのは確かである。特に近年の若い学生を見ていて思うことは、彼らは毎日フェイスブックに書き込みをしており、他人の文や意見にコメントを書くことに慣れているということである。パソコンのない数年前に高学年を対象にこの方法を採用入れた時、学生達はコメントを書くのに多少躊躇が見られたが、今の学生はどんどんコメントを書いていく。そして自分の作文に書かれたコメントを読むことも、フェイスブック時代の彼らにとっては大変楽しいことであるようだ。¹⁵

一般的に「作文」と言うと、すぐ日本語の添削と考えがちだが、作文こそ学習者の思考能力や表現能力を養成する「内容科目」と考えるべきではないかと思う。

7. 授業の試み④－「聞く・話す」

表面的な日本語の練習で終わらず、内容に踏み込んだ大学生らしい授業を－という考えで現在授業を進めているのは、「読み」「書き」の授業が中心であり、「聞く」「話す」の授業方法についてはこれから研鑽が必要である。それは、台湾の学生にとって文字を媒介として内容を理解することは容易なため、早いうちから高度な内容の文章への取り組みも可能であるが、日本語を聞く能力となると、初級段階では語彙的に難しい点があり、話す能力も基礎練習を積み重ねないと、なかなか高度な内容の発言は難しいと思われるからである。

現在行っている授業の方法としては、「聴解」は課外学習として教科書の聴解問題を聞かせ、毎週一回一年生全体でのディクテーションテストを行っている。そして内容を充実させるための試みとして、テストの後でテープの内容について教師や TA (Teaching Assistant) が学生にグループ単位で質問し、学生が答えるという方法をとっている。「聞く」から「話す」に結びつける方法と言える。

そして、「話す」授業では、いくつかの既習文型を集めたタスクを使ってクラスメートにインタビューする方法や、「読み」で扱った教材の感想を口頭で発表させる方法等、いろいろな方法を試みているが、授業だけでは学生の「話そう」という気持ちを引き出すのには不十分で、ここでも TA の活用を試みている。学生は毎週グループごとに決まった時間に日本人 TA の所

¹⁵作文の授業中は、学生は席を移動して作文の日本語の意味やコメントの内容について、学生同士で質問したり、評価し合ったりして、教室の雰囲気は開放的で活気あるものになっている。

へ行き、前もって決めたテーマを中心に 25 分間の自由討論を行い、終了後レポート(中国語)として教師に提出する。レポートを見てわかるのは、この自由討論を楽しみにしている学生が多いこと、TA に伝えたいことがうまく伝えられなくて、次には頑張ろうと学習意欲を引き出すきっかけにもなっているということである。

「聞く」「話す」の授業で、どれだけ内容に踏み込むことが可能なのか、なかなか難しい課題ではあるが、社会的、文化的话题についてのプレゼンテーションなど、効果的な授業の内容、方法について今後更に考えていく必要を感じている。

8. 結論：日本語教育と内容科目の融合

日本語の授業で何を教えるかというのは、現場の教師に課された重要な課題である。大学での日本語の授業は単なる言語教育だけでは不十分で、言語を取り巻く人間や社会、国家というものを意識して行うべきであろう。そのような考えから、新しい体制あになって二年半の「総合日語(一)」の授業を振り返った。文型の練習や作文、読解の授業で、単なる言葉の練習にとどまらず、教師が意識してその内容や背景知識にまで踏み込むことが重要であろう。そうすることで「大学生らしい」話題で授業が進められるし、学生も日本語学習に対する興味を持続させることができると考える。

パウロ・フレイレ(1979)は、その著書『被抑圧者の教育学』の中で、伝統的な教育が生徒の創造力、探求心、知識を喪失させていると批判し、次のように述べている。

かれ(教師)は生徒の日常の生活経験とはまったく無縁な話題を、ことこまかに解説する。かれの仕事は、一方的に語りかける内容で生徒を満たすことである。ところがその内容は、現実から切り離されており、内容を生みだしそれに意義を与えることのできる全体性とも断たれている。(中略)生徒は四かける四が実際に何を意味するかを知ることもなく、また、「パラの州都はベレム」のその州都の本当の意義を、すなわち、パラにとってベレムはどのような意味をもち、

「語言文化學系」における初級日本語の取り組み
—大学生の言語運用能力と社会文化的知識形成
のための教育を目指して—

また、ブラジルにとってパラが何を意味しているかを理解することもなく、これらの文句をノートに記録し、暗記し、反復するのである。¹⁶

このフレイレの教育思想は、日本語教育現場の問題点をも示唆しているのではないだろうか。学生が日本語を学びながら日本について、また自分の周りの社会について考えることができる授業やカリキュラムが、大学教育の一環として大切なのではないだろうか。これらは、近年の多元社会・多元文化の中で、台湾学生の言語運用能力と社会・文化的知識、社会的適応力・交流能力を同時に育むために、われわれ現場教師に課された課題だと言える。

(おがたともゆき 東海大学日本語文化学系)

参考文献

- 財団法人交流協会編(2011)『台湾における日本語教育事情調査報告書』財団法人交流協会台北事務所
- 南台科技大學應用日語系(2011)『文化産業と日本語教育の結合とその可能性』南台科技大學應用日語系 2011 年國際學術研討會
- 李德奉(2009)「学問融合型広域日本語教育学構築を求めて」『2009 年度台湾日語教育研究國際學術研討會論文集』
- J.V.ネウストプニー(1995)『新しい日本語教育のために』大修館書店
- パウロ・フレイレ(1979)『被抑圧者の教育学』垂紀書房
- NPO 法人日本語多読研究会監修(2006)『レベル別日本語多読ライブラリー』アスク出版
- 谷治正孝監修(2011)『なるほど知図帳世界 2011』昭文社
- 梅棹忠夫他監修(1986)『THE 日本』講談社
- スリーエーネットワーク(1999)『大家的日本語』大新書局
- スリーエーネットワーク(1999)『大家的日本語・句型練習冊』大新書局
- スリーエーネットワーク(1999)『大家的日本語・読解篇』大新書局
- スリーエーネットワーク(1999)『大家寫にほんご作文』大新書局

¹⁶パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』1979 年、p.65-66。